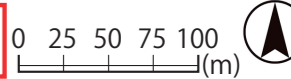


米原市醒井水害履歴マップ① 地域特性と地蔵川周辺の浸水被害

昭和 22(1947)年
被害状況

昭和 34(1959)年 8月
台風第 7号 被害状況

平成 29(2017)年 10月
台風 21号 被害状況

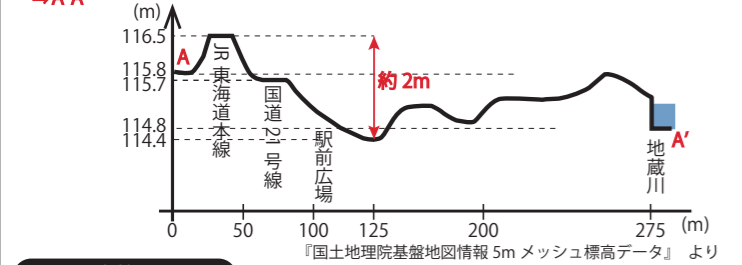


平成 30 (2018) 年 10 月 4 日 米原市醒井 醒井公民館で行った聞き取り調査に基づき作成

作成 関西大学 景観研究室 (米原市都市計画地図上に作成)

よく起こる水害のメカニズム

- 大雨により地蔵川の水位が上昇し、流量が増加する。
- 溢れた水が地盤の低い箇所に流れ込み、浸水被害が起きる。醒ヶ井駅付近は、駅から国道 21 号線をはさんだ南の駅前広場に向かって、地盤が低くなっていき、最低地盤と JR 線盛土には 2m 程の高低差がある。



- ### 地蔵川
- 水源は霊仙山からの湧き水であり、大雨時に増水し、その後減水してゆく水位の変化はゆっくりである。
 - 大雨によって川水が濁ると、水質が元に戻るまで長くて 1 週間ほどかかる。
 - 地蔵川に土砂が堆積し河床が上がっているため、2000 年頃から地蔵川から川水が溢れる水害が頻発している。2019 年 1 月から、醒井大橋の下流側で浚渫工事を開始しており、今後排水が改善する見込みである。
- ### 枝折川
- 旧枝折川は天井川であり、氾濫すると堤内の水が排水されにくかった。
 - 枝折川はかつては地蔵川と合流していたが、昭和 39 年(1964)の河川改修によって、丹生川と合流する現在の流路に付け替えられた。

醒井の防災

- 水位が上昇し危険と判断した場合、かつては声掛けで危険伝達を行っていた。
- かつては浸水の危険を感じると、事前の対策として、各家庭で門や玄関に板を立てたり、家の畳や店の商品などを高いところに移動させたりしていた。
- 消防団は昭和 28 年頃から天野川、丹生川、地蔵川の見回りをしている。
- 近年は浸水の危険を感じると区長さんに要請をし、消防団の方に土嚢を積んでもらう。
- 地蔵川には養鱒場に引水するための堰が設けられており、大雨の際は水が溢れないようせぎ板を外す。
- 近年、米原市の建設課が地区内の雨水排水工事を行っており、排水不良が改善しつつある。台風が来ると、市の職員が夜中でも地区へ見回りに来られる。

【天野川左岸堤防】
この部分が周辺より低くなっている

【天の川沿いの田地】
砂利の多い地質のため、水捌けがよく稲作に向いているため、おいしい米が採れる

【二線堤とは】
本堤背後の堤内地に築造される堤防で、万一本堤が破堤した場合に、洪水氾濫の拡大を防ぎ被害を最小限にとどめる役割を果たす。現在でも、二線堤の外側の田は年に一回程度浸水するが、内側は浸水しない。



(昭和 34 年, 台風第 7 号)
天野川からの浸水を防ぐため、国鉄東海道本線のガード下に土嚢を積んだ

【雨水貯留能力】
以前は、法善寺と緑苔寺の間は田地で地盤が低く、大雨時はここに雨水が貯留されていた。その後田地の一部が宅地化され、大雨時の雨水貯留能力が低下し、旧街道沿いの居住区へ雨水が流れ込むようになった。E さん宅の裏が特に浸水する。



地蔵川 特性

- 水源が湧水のため、普段は水が澄んでいる。
- 大雨時、周辺の山の地盤が緩んでいると、泥が水に流れ込み、水が濁る。しかし、外部からの洪水の流入はないので、増水後の泥の堆積はあまりなく、掃除もさほど大変ではない。
- 地元の方々は、大雨時には地蔵川の水位と水の濁り具合をみて、増水の危険性を判断している。

(平成 29 年 台風 21 号)
地蔵川周辺が広範囲にわたり浸水したが、地蔵川水源付近の O さん宅は被害がなかった

【道路面よりも地盤の低い敷地】
大正通り及び旧街道沿いにある歴史の古い家屋の敷地は、道路面よりも地盤が低く、道路が冠水すると敷地内に水が流れ込む

【浸水時の道路の様子】
以前は家屋が浸水すると、汲み取り式便所から汚物が外に流れ出てしまい、道路に汚物が浮いていた

(昭和 22 年)
公民館よりも西側は床下浸水

(昭和 34 年, 台風 7 号)
I さん宅では立地的に浸水被害があったと考えられる

(昭和 34 年, 台風 7 号)
K さんの商店では商品を高いところへ移動させた

(平成 29 年 台風 21 号)
地蔵川から分岐する農業用水路から水が溢れ、道路面上を水が数日間溢れ流れていた

(平成 29 年 台風 21 号)
Y さん宅 床上浸水

【駅前広場周辺】
地盤が低いため、1 階が浸水している間は、田舟を使い 2 階から物資の積み下ろしを行っていた

(昭和 22 年)
醒ヶ井駅前広場周辺は、地蔵川の氾濫により床上浸水

(昭和 34 年, 台風 7 号)
醒ヶ井駅前広場では胸の高さまで浸水

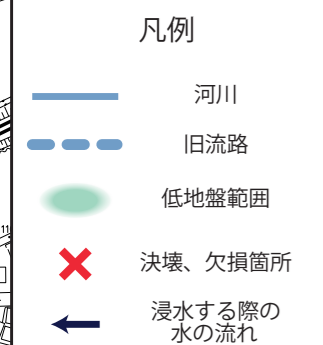
(平成 29 年 台風 21 号)
H さん宅 床上浸水

昭和 34 年 台風第 7 号 概要

【概要】全国
死者 188 名 住家全壊 4,089 棟 床上浸水 32,298 棟
○近畿から関東地方にかけて 200mm を超える雨が降り、山間部では 600 ~ 800mm に達した。
【醒井での台風第 7 号 被害】
○地蔵川が増水し、地区内で浸水が発生した。

平成 29 年 台風 21 号 概要

【概要】全国
死者 8 名 住家全壊 5 棟 床上浸水 2,456 棟
○台風を取り巻く発達した雨雲や本州付近に停滞した前線の影響により、西日本から東日本、東北地方の広い範囲で大雨となった。
○台風の影響により全国的に暴風、また西日本から東北地方の広い範囲で河川の氾濫や浸水害、土砂災害等が発生した。
【醒井での台風 21 号 被害】
○床上浸水は 10 軒以上あったと予測されているが、具体的な被害場所は不明。
○地蔵川の氾濫により、街道など川沿いの道路は川のようになった。
○浸水深は 5~10cm 程。
○普段の台風の場合は地蔵川の水位はすぐに下がるが、この時は水位が下がるまで時間がかかった。
○雨の日には地蔵川にある堰の蓋を取り水が溢れないようにしている。
○特に避難をした人はいなかった。



【醒井周辺の山地の地質】
醒井周辺の山地は地質が岩盤のため、これまでに土砂崩れが発生した記録はない。
※しかし、一部醒ヶ井公民館、加茂神社付近は土砂災害特別警戒区域に含まれている。